

2004. 3. 10
 東京大学広報委員会

東京大学卒業・修了予定の外国人留学生、 留学生支援団体等と総長との懇談会



(3 ページに関連記事)

目次

広報委員会 (東京大学の法人化に関するQ&A) ...	2	部教職員と留学生・外国人研究者との懇親会、東京大学生産技術研究所合同講演会「リサーチインテグレーションと産学連携」開催される、東京大学物性研究所所内技術職員研修「安全管理・衛生管理技術関係」行われる、博物館公開セミナー「石の記憶」展にちなんで	12
一般ニュース	3	掲示板	12
戸田橋艇庫竣工式が開催される、東京大学卒業・修了予定の外国人留学生、留学生支援団体等と総長との懇談会、「東京大学外国人留学生スキー講習会」開催される、2003年度冬学期留学生センター日本語教育集中コース・特別コース(第37期生)の修了証授与式行われる		v h ° æ 「生命融合科学と世界の中の東大」...	16
部局ニュース	9		
退官教官の最終講義、理学系研究科・理学			

≡ 広報委員会 ≡

東京大学の法人化に関するQ & A

Q： 法人化すると労働安全衛生法が適用になるとのことですが、それはどのような法律ですか。

A： 労働安全衛生法は、労働基準法と相まって、労働に従事する人の労働にともなう災害や健康障害を防止し、快適な職場環境の形成を促進することを基本として設けられた法律です。この法律は、例えば作業場において使用される化学物質による健康障害を防止するために必要な設備や化学物質の空気中の濃度の管理基準を示すなど、労働災害を防止するための危害防止基準を確立し、さらには責任体制を明確化することを明記しています。実際には、この労働安全衛生法は、さらに労働安全衛生施行令、労働安全衛生規則、有機溶剤中毒予防規則、作業環境測定法など、20以上にのぼる関連法規により体系づけられており、これらの法令に基づいて、労働者を雇用する事業者に対して、労働者の安全と健康を守るための様々な監督、指導をおこなう権限が労働基準監督署に附与されています。

Q： これまでの東京大学の教育研究業務に関する安全と健康を守るための法律や規程は今後どうなるのでしょうか。

A： 国立大学の国家公務員に対しては、一般の法人に対する労働安全衛生法に相当するものとして、昭和48年に施行された人事院規則10-4「職員の保健および安全保持」が適用されていました。その内容は、若干の相違点はあるものの、多くが労働安全衛生法で定められた事項を踏まえたものでした。実際に、東京大学で定めた「東京大学職員の健康安全規程」でも、この人事院規則に準じた教育研究業務には安全と健康を守るための種々の規程が定められていました。

国立大学法人化後は、労働安全衛生法およびその関連法規に対応した「東京大学教職員の安全衛生規程」が新たに制定されます。労働基準監督署による監督・指導もより明確化されます。その意味からも、これまで以上に、大学においても法令や東京大学の規程を遵守した教育研究活動が求められます。

Q： 労働安全衛生法が適用されると、東京大学における教育研究業務に具体的にはどのようなことが要求されてくるのですか。

A： 例えば、理系の実験室などでは、普段使用している実験用試薬の多くは、労働安全衛生法で人体に有害性のある化学物質として指定された有機溶剤や特定化学物質です。労働安全衛生法は労働にともなう災害や健康障害を防止することを重要な目的として定められた法律ですから、これらの有機溶剤や特定

化学物質を使用する場合には、ドラフトチャンバーなどの局所換気装置の設置や、実験室の空気中の化学物質の濃度を測定する作業環境測定、およびこれらの有機溶剤や特定化学物質を使用した実験室を使っている人への特殊健康診断などを行なうことが義務付けられています。また、実験に用いる局所排気装置やオートクレーブ機などの機器の安全性を定期的に自主点検し、その記録を3年間保存することも義務付けられています。

このように、労働安全衛生法が適用されることにより、東京大学における教育研究業務にも、これまで以上に法令に基づく厳格な対応が求められることとなります。

Q： 労働安全衛生法は労働者の労働災害や健康障害を防止するための法律とされていますが、学生の安全や健康管理には無関係なのですか。

A： たしかに、労働安全衛生法は、働く人と、雇用する事業者に対して、安全と健康を守るために定められた法律です。もし学生が実験中に化学物質により健康障害を被った場合などには、労働災害とは認められず、労働基準監督署の調査や指導などを受けることはありません。しかし、大学では、教職員と学生が一体となって教育研究に携わっているのが現実であり、労働安全衛生法が学生を対象にしていないからといって、安全衛生管理の対象から学生を除外するというのは、不適切です。

東京大学では、労働安全衛生法に対する対応においても、常に教職員と学生を一体化して安全衛生管理を行なっていく姿勢で臨む方針です。たとえば、安全衛生教育は、教職員だけでなく、必ず学生の皆さんにも受けていただくように企画します。また、労働安全衛生法で指定された有機溶剤や特定化学物質を使用した実験室を使っている人への特殊健康診断についても、教職員だけでなくその部屋で実験に携わっている学生も対象に行なう方針です。これらの対応は、学生の安全と健康を守るというだけでなく、学生の皆さんが、大学を出て社会で活躍するするために、労働における安全と健康管理の意識を育てるという教育的な意味からも、重要なことだと思われれます。

(広報委員会)

この講習会を無事に実施することができたのは、本学スキー部関係者、ボランティアの数年にわたる真に多大なる御協力と優れた企画力及び小谷中学校関係者、生徒達の御厚意と御協力、更に本会を支えていただいている会員各位の御支援の賜物であり、ここに心から御礼申し上げます。

2003年度冬学期留学生センター日本語教育集中コース・特別コース（第37期生）の修了証授与式行われる

留学生センターでは、昨年

すが、すこし日本語が分かります。はじめは先生たちの話を聞くことがむずかしかったですが、今は先生たちのユーモアを聞いてわらうこともできます。そして今、この時も日本語がだんだんもっと上手になっていると思います。

私たちのクラスには学生が8人いました。スリランカのランシリニさん、タイのシリラットさん、ネパールのカルパナさん、バングラディシュのシャヒナさんとナスさん、ポーランドのクリスさん、中国のフーさん、それから私です。私たちはいつも元気で、じゅぎょうはたのしかったです。そして先生たちもいつもわらって親切に、おもしろく日本語を教えてくださいました。

日本語のクラスは私たちにとってほんとうにいい時間でした。日本語のクラスの楽しかった時間をわすれないと思います。先生方、留学生センターのみなさん、どうもありがとうございました。これからもどうぞよろしくおねがいます。

クラス1S代表

謝賓 (XIE BIN シャ ヒン)
(中国 数理科学研究科)

先生、皆さん、こんにちは。

私はクラス1Sの代表、謝賓と申します。中国人です。専門は数理科学です。私は去年の十月にはじめて東京に来ました。これからクラス1Sのことをお話ししたいと思います。

今回クラス1Sには十一人の学生がいて、五人が中国から、ほかのクラスメートはいろいろな国から来ました。タイのカノクオンさん、バングラディシュのサデクさん、インドネシアのアリフさん、ネパールのポウデリさん、モンゴルのバヤルさん、フィリピンのアシスさん、中国のトウランさん、周さん、トウメイさん、コウさんです。今、私たちはいい友だちになりました。楽しくて、幸せだったと思っています。

私は四か月前には日本語を全然知りませんでした。それで、東京に来た時、とても困っていました。たとえば、どこでどうやって電車の切符を買うか、どこで安く買い物できるか、わかりませんでした、専門のクラスもわかりませんでした。ですから、日本語の勉強はとても必要でした。去年の十一月に、クラス1Sで日本語の勉強が始まりました。先生方はとてもやさしくて、親切で、教えるのが上手なので、私たちは日本語に興味を持ちました。毎日たくさん新しい単語と文法を勉強して、たくさん会話を練習しました、ときどき楽しいゲームもしました。今は友だちや先生と日本語でやりとりできるようになりました。クラス1Sはとても楽しかったです。だから私たちの日本語ははやく進歩しました。

日本語を勉強しなくちゃいけませんでしたが、おもしろいけんもしました。東京のいろいろなところへ行きました。それから、日本人の友だちができました。会

社ではたらいっている人や、親切でやさしい先輩や同級生たちです。たくさんの方のおかげで、私は日本の生活や文化を知りました。もっと日本の文化を知るために、私は春休みにホームステイをするつもりです、そしてたくさんいい友だちを作りたいと思います。

先生方、事務室の皆さん、ほんとに今学期はたいへんお世話になりました。これからもよろしくお願いします。やさしいクラスメートのみなさん、一緒に勉強できて、楽しかったです。どうもありがとうございました。

クラス2代表

EGLINTON ANDREW WILLIAM(エグリントン アン
ドリュウ ウィリアム)
(イギリス 総合文化研究科)

みなさん、こんにちは。アンドリュウと申します。今日はクラス2を代表してスピーチをしたいと思います。よろしくお願いします。

まず、クラス2のメンバーを紹介します。タイ出身で電子工学専門のアニワットさん、同じく電子工学が専門でブラジル出身のラファエルさん、ノルウェー出身で建築専門のトールさんと、イングランド出身で演劇が専門の私です。4人だけの小さなクラスだったので、すぐにみ

を入れていきたいと思ひます。皆さん、ありがとうございます

クラス5代表

KO JUNG SAM(コウ ジョン サム)

(韓国 法学政治学研究科)

クラス5を代表してスピーチをさせていただきコウジョンサムと申します。韓国から参りまして、現在、法学部研究生として行政学を専攻しております。

クラス5は、今学期四人いました。一人はヨーロッパのクロアチアから来たベルさんです。彼は背も高くても男らしく見えますが、日本語の話し方は意外にやさしいです。でも、国際関係の知識はクラスメートをびっくりさせるほどでした。そして、中国から来た二人のうち、男性のファンさんは、光ファイバーを研究する工学系の院生です。彼はいつも自分の小さい自転車を車だと主張しました。そういえば、自転車も車ですね。もう一人は、法学部で民法を専攻するチョウさんです。彼女は、現在、結婚のために国へ帰りました。皆さん、彼女の結婚を祝福してください。

授業は、一週間に3日、100分ずつ行われました。主に新聞記事・小説・エッセイ・論文などを読みながら、意味を把握したり、重要な文法をチェックしたりした後、討論する方式でした。集中して読まなければ先生の鋭い質問に答えることができないので、いつも、緊張を維持しなければならなかったです。最初、クラスメートは、沈黙は金だという信念を持っているかのように、あまり話しませんでした。だんだん授業の雰囲気に慣れて、自分の意見や主張を積極的に話すようになりました。結局、授業が進まないほどお互いに夢中になって話し合ったこともありました。いま振りかえって見ると、日本語を多く話せるように導いてくださった先生方のご配慮だと思います。

このように、各国から来た留学生たちが同じ場所に集まり、授業を通して各国の色々な事情について理解し合うようになりました。すなわち、クラス5の授業はクロアチア、中国、韓国、日本を連結する架け橋の役割を十分に果たしたと思います。クラスメートはその橋の上で親しくなりました。お互いの文化の違いを克服するには、少しずつ譲り合い、理解し合うのが重要です。そのような面から見ると、留学生センターの授業は世界の平和にも資しているといえるでしょう。

授業を担当していただきました菊地先生、大島先生、増田先生、藤城先生に心からの感謝を、クラス5の全員からお伝えします。

みなさん、将来、夢を実現したところで、この半年間を思い出して、改めて実感する日がくるでしょう。ここでの授業がいかに大切でありがたかったかを。

特別コース代表 MUSULIN ILJA(ムスリン イーリャ)

(セルビアモンテネグロ 総合文化研究科)

みなさん、今日は、特別コースのムスリンと申します。

セルビアモンテネグロからまいりました。日本の古典文学の研究をしております。

さて、まず特別コースはどういうコースだったかをみなさんにご紹介するために、その内容と参加者について話させていただきます。

特別コースでは、接続・引用・文末表現などといった文法事項をもとに、分類・定義・対比・問題提起というような、学术论文を書く上で必要不可欠な論理的な要素を学びました。

私たち学生は、先生方に丁寧に教えていただいた論文の構造、論文でよく使われる表現を、これから研究の中で有効に生かすように頑張っていくつもりです。

特別コースを担当してくださった二通先生と増田先生に、私たち学生は多大なご苦勞をお掛けしてしまいました。私たち特別コースの学生は、宿題の問題の内容を書きやすいように自分の都合よく解釈したり、それでもうまく書けなかった時には宿題のタイトルまで勝手に変えたりする、やや個性の強い、特別なクラスでした。また、わたしたちのクラスには、法学・医学・心理学・文学・社会学など、異なる専門分野を専攻する学生がいました。しかしながら、先生方はこの多種多様にうまく対応してくださいました。両先生は私たちに言葉の法律である文法を教え、間違いという私たちの日本語の病気を治し、日本語の知識不足からくる私たちの悩みを取り払い、私たちの日本語をより美しいものにし、さらに、わたしたちが日本の社会において支障なく生活するのに必要な言葉を教えてくださいました。先生がたはそれぞれの学生の要求に応え、わたしたちが満足できるような授業を実現してくださいました。

日凡達スはどういr 雖诱寂纒暇 旬た胭題に謀 よ薬燹媒

虞法専繼私是か学生はひ龕征驛 退蠅返土姫 姿 委

どうもありがとうございました。
以上です。

(留学生センター)

		(辞 職)	
1 . 2 .	古 川 洋 一	辞 職	医科学研究所附属ヒトゲノム解析センター
		(採 用)	
1 . 3 . 1	坂 井 克 之	大学院医学系研究科助教授	英国 Institute of Neurology HFSP長期リ
		"	
	HANNAH LESLIE	大学院経済学研究科教授	アッシュレジ・ビジネススクール学長
"	船 津 高 志	大学院薬学系研究科教授	早稲田大学理工学部物理学教授
"	林 香 里	社会情報研究所助教授	バンベルク大学客員研究員
"	加 藤 岳 生	物性研究所物性理論研究部門計算物性物理 研究領域助教授	大阪市立大学大学院工学科・工学部講師
		(昇 任)	
1 . 2 . 4	西 山 賢 一	分子細胞生物学研究所助教授	分子細胞生物学研究所助手
1 . 2 . 1	高 田 毅 士	大学院工学系研究科教授	大学院工学系研究科助教授
"	九郎丸 正 道	大学院農学生命科学研究科教授	大学院農学生命科学研究科助教授
"	堀 正 敏	大学院農学生命科学研究科助教授	大学院農学生命科学研究科助手
"	大久保 靖 司	保健管理センター助教授	千葉大学大学院医学研究院助手
1 . 3 . 1	浅 野 知一郎	大学院医学系研究科助教授	医学部附属病院助手
"	渡 邊 聡	大学院工学系研究科教授	大学院工学系研究科助教授
"	赤 石 美 奈	大学院工学系研究科助教授	北海道大学大学院工学研究科助手
"	島 野 亮	大学院理学系研究科助教授	大学院工学系研究科助手
"	河 鱈 実 之	大学院農学生命科学研究科助教授	大学院農学生命科学研究科講師
"	高 田 康 民	物性研究所物性理論研究部門複雑系科学研 究領域教授	物性研究所助教授
"	勝 本 信 吾	物性研究所先端領域研究部門先端物性研究 領域教授	物性研究所助教授
"	高 橋 敏 男	物性研究所先端分光研究部門先端分光物性 領域教授	物性研究所助教授
"	廣 井 善 二	物性研究所附属物質設計評価施設計算物性 科学領域教授	物性研究所附属物質設計評価施設助教授
"	佐 藤 克 文	海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター 助教授	国立極地研究所研究系助手
"	鈴 木 良 實	環境安全研究センター助教授	環境安全研究センター助手
		(配 置 換)	
1 . 2 . 1	玉 木 賢 策	大学院工学系研究科教授	海洋研究所教授
1 . 3 . 1	山 本 博 資	大学院新領域創成科学研究科教授	大学院情報理工学系研究科教授

発令年月日	氏 名	異動内容（新官職）	旧（現）官職等
16. 3. 1	桑 原 誠	九州大学大学院総合理工学研究院教授 （ 転 出 ）	大学院工学系研究科マテリアル工学専攻機能システム講座先端応用材料学領域教授
"	後 藤 英 司	千葉大学園芸学部助教授	大学院農学生命科学研究科助教授
"	原 田 繁 春	京都工芸繊維大学繊維学部教授	大学院薬学系研究科助教授
16. 3. 1	岩 崎 晃	大学院工学系研究科助教授 （ 転 任 ）	独立行政法人産業技術総合研究所主任研究員
"	横 井 浩 史	大学院工学系研究科助教授 （ 併 任 ）	北海道大学大学院工学研究科助教授
16. 3. 1	桑 原 誠	大学院工学系研究科教授	九州大学大学院総合理工学研究院教授

人 事 異 動（事務官）

発令年月日	氏 名	異動内容（新官職）	旧（現）官職等
16. 2. 29	荒 井 智 典	辞 職	農学系学術国際課研究協力掛長 農学系学術国際課国際交流掛長（併）



原 稿 募 集

「学内広報」に学内の情報をお寄せください。

- ・文字数 800字以内（写真がある場合は、文字数を控えめにしてください。）
- ・写真には、キャプション（説明文）を添えてくださるようお願いいたします。

「学内広報」には、みなさんから投書を寄せていただく欄として「噴水」、東京大学と社会との連携・協力情報を紹介するための欄として「窓」が設けられています。これらの欄への投書要領は次のとおりです。

「噴水」

- 1 本学における教育・研究活動等に関する意見を述べたものであること。
- 2 個人の投稿で所属・氏名を明記したものであること。
- 3 他者への非難・攻撃を含まないものであること。

「窓」

「東京大学とその周辺地域の歴史」、「学外機関より本学構成員への表彰」、「学外の方からの東京大学に関する意見」など、東京大学と社会との関係に関する情報であること。

以上の要件をそなえるものの中から、広報委員会が適当とするものを、適宜、掲載します。

送り先 東京大学事務局総務部総務課広報室

03-3811-3393 内線：82032、22031、 FAX：3816-3913

E-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

広報室からのお知らせ

平成15年度「学内広報」の発行日及び原稿締切日を、東京大学のホームページに掲載しました。

URL: <http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/soumu/soumu/kouhou.htm>

